

4 地域住民による取組

江藤家住宅 まもろう会

大津町

地域住民による文化財保存団体

江戸時代から大津町に残る貴重な歴史的建造物「江藤家住宅」。この大切な文化財を未来へ継承するため、地域住民が立ち上がりました。「江藤家住宅まもろう会」は、地域の宝を自分たちの手で守り、活用していく住民主体の取組です。清掃活動、イベント企画、ガイド育成など、様々な活動を通じて、文化財と地域をつなぐ架け橋となっています。



(大津町教育委員会提供)

50名
会員数

2015年
（前身の支える会は1993年）

月1回
定例活動

年5回
春と秋の一般公開
資料室公開(3回)

【江藤家住宅】

江藤家住宅は江戸時代の「在御家人」(郷土)住宅の形を残しています。

主屋の他、長屋門、石垣等国指定重要文化財として指定されています。

※江藤家住宅は、一般公開等を除き敷地内は非公開です。

【会の設立のきっかけ】

およそ200年にわたり住まいとして使用され、貴重なためである江藤家住宅をこれまではもちろん、これからも地域の心のよりどころとして守って、いこうとの思いで活動を始めました。

【主な活動内容】

建物・庭園の定期清掃と維持管理

一般公開イベントの企画・運営(年2回程度)

ボランティアガイドの育成・派遣

地域の子どもたちへの歴史教育プログラム

広報活動

自治体・教育委員会との連携協議



(大津町教育委員会提供)

定例清掃活動

屋敷の敷地はとても広く、楠の大木をはじめ20種類ほどの植物があり、下草刈りや掃除などは、まもろう会で月に1、2回、一般公開の前には総出で掃除などを行っています。



(大津町教育委員会提供)

公開イベント

年2回(春・秋)の一般公開、茶会、歴史講座など、住民や観光客が交流できる場を提供。まもろう会がガイドを行っています。(秋は地元大津南小4年生のボランティアガイドも行われます。)

【今後の課題】

会員の高齢化が一番の課題。生活習慣の多様化でなかなか活動に時間が割けず若い人に引き継いでいくことが難しくなっていますが、今後もこの地域のたからを残していけるように取り組んでいきます。

二俣渡 豪雨災害復興支援

美里町

地域住民による文化財復旧活動

県指定重要文化財「中山手永における石橋群 附 石碑 2 基」である二俣渡と二俣福良渡は、河川が合流する箇所に造られており、二つの橋を上から見るとし字型に並んでいます。

令和 7 年 8 月の豪雨災害で二俣渡が被災し現在は通行止めとなっています。この大切な地域の宝のを見守りながらも、復旧に少しでも力になりたいと様々なチャリティイベントを企画し売り上げの寄附活動などを住民主体で取り組んでいます。



(写真：美里町提供)

～被害状況～
路面の陥没、高欄上流側の流失、中詰材の流失、壁石の部分的抜け落ち、壁石の変形（ハラミ）、輪石（アーチ）のズレ・変形等。

【主な活動】

イベントの売り上げ（経費を除いた分）は、二俣渡復興の義援金として町に寄附

8月	豪雨により二俣渡被災
9月	・二俣橋復興チャリティヨガ
10月	・MISATOチャリティフリマ
11月	・チャリティマルシェ
12月	・ふたまたばしチャリティてぬぐい 販売 ・フットパスとランチ
1月	・二俣橋災害復興チャリティLive
今後	・引き続きチャリティイベント開催予定



(吉田氏提供)

チャリティフリマ

ちいさなちいさな1dayフリマ
参加店舗：5店舗
来場者数：約100名



(田中氏提供)

グッズ制作

オリジナルの手ぬぐいを作成
制作数：300枚



(亀本氏提供)

チャリティLive

来場者数：約40名

【主催】

有志 3 名

- ・企画運営・会場提供：亀本多希（Tika scone & cafe店主）
- ・企画運営・経理担当：吉田文（地域おこし協力隊（～R7））
- ・企画運営・デザイン：田中ヤスお（デザイナー）

【イベントの効果・今後の活動について】

美里町内外（県内外）からイベントに参加いただき、多くの方に二俣橋の歴史や現状そして復興への願いを知っていただくきっかけとなりました。これからも粘り強く、そして楽しく、二俣橋の応援を続けていきます。今後も様々な形でイベントを企画予定です。ぜひ一緒に、この橋の未来を見守っていただきたいです。